

アンケート調査に関する意見への対応

No.	区分	意見	対応
1	全般	選択方式だけではなく、結婚・就職に対しての不安や心配事、障害となっていることなど、具体的なことを記述する方法も必要ではないか。	記述式の質問も追加する。
2	全般	定住・二地域居住、進路希望調査等は、既存調査を有効に活用することが必要	既存の調査と質問項目が重複する内容は既存調査結果を活用し、不足する項目については改めてアンケートを実施する。
3	結婚・出産・子育て	シングルマザー・シングルファーザーの観点も調査の対象に含める必要がある。	対象者の属性の項目で分類し、独身、有配偶者、子どものありなしそれぞれの意見を施策へ反映できるよう整理した。
4	結婚・出産・子育て	周囲のサポート状況等を把握するため、居住の状況等も把握する必要がある。	対象者の属性の項目に世帯構成を追加する。
5	結婚・出産・子育て	子どもの成長過程の中で、どの段階に一番不安があるのかを把握すると参考になるのではないか。	子育ての不安に関する質問で把握する。
6	定住・二地域居住	(農業従事・老後の生活など)移住者の目的が混在した形でアンケートを実施しても、意味のある結果は得られないのではないか。	福島県に関心を寄せる方たちが主に加入している「ふくしまファンクラブ」会員を対象に調査を実施する。
7	定住・二地域居住	首都圏在住者はアンケートの方法によって、対象者の年代に偏りが出るため、実施方法を工夫する必要がある。	福島県に関心を寄せる方たちが主に加入している「ふくしまファンクラブ」会員を対象に調査を実施する。
8	定住・二地域居住	なぜ、福島県に関心を持ったのかを聞く必要があるのではないか。	福島県を知ったきっかけ・手段等を把握する。
9	定住・二地域居住	調査対象が、首都圏在住者200名程度では、意味のある結果は得られないのではないか。	「ふくしまファンクラブ」会員1,500人を対象に調査を実施する。
10	定住・二地域居住	都会等の県外から来た人を対象にしたアンケートも必要ではないか。	移住者を対象にした調査を実施する。
11	進路希望	高校生・大学生へ「将来就きたい職業」を質問することの意義はなにか。	職種の希望等を質問し、現在の県内求人等との比較・分析をします。
12	進路希望	県内出身専門学校生への調査も必要	県内専門学校生(看護学校等を含む)も調査対象とする。

地域創生に係る県民アンケートについて

－調査項目別－

＜結婚・出産・子育てに関する意識調査＞

1 対象

平成27年4月1日時点 18～49歳までの男女2,000人程度

※ 対象年齢を当初39歳までとしていたが、結婚・出産・子育ての面で40歳代の意見も貴重と考えられるため、対象を49歳まで引き延ばしている。

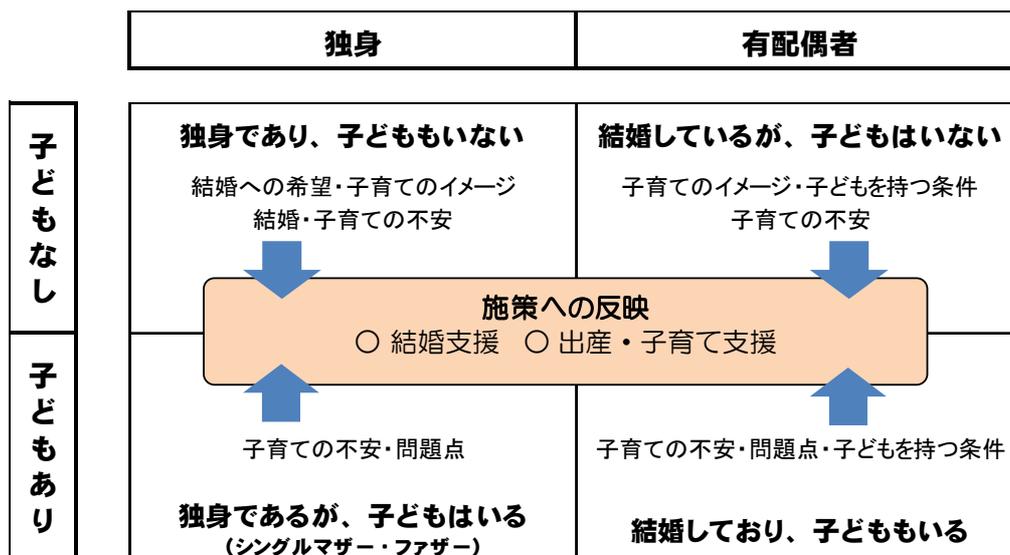
※ 当初独身者と有配偶者を半分ずつとしていたが住基データの抽出条件に合致しないため、抽出できる範囲で市町村に依頼中

2 抽出方法

・層化二段無作為抽出により、回収率30%で想定

・県内の対象者7,000人にアンケートを送付予定（市町村より住基データを収集中）

3 設問構成



4 その他

人口目標設定のための仮定値として要する合計特殊出生数については、ふくしま新生子ども夢プランにかかるアンケート調査結果（H26.9、回答数1,838件）である「平均2.76人」を基礎数値として、今回のアンケートにおいて「理想的な子どもの数」は問わない。

<定住・二地域居住に関する意識調査（移住者）>

1 対象

平成27年4月1日以前に県外から住民票を異動した方

2 抽出方法

- ・平成27年4月1日以前に住民票を異動した18歳以上の世帯主
- ・各市町村、直近5年以内の異動で上限は100人で抽出（最大値5,000人）

3 設問構成

行動の段階	設問
動機	移住を考えたきっかけ
認知	ふくしまを知ったきっかけ・手段
関心	ふくしまへの移住に関心を持った時期・きっかけ・他県への関心
選考	移住決断のきっかけ・ふくしまがよいと思った点
行動	移住に必要な支援・移住に際する課題
行動の結果	ふくしまの良い点・悪い点・今後の居住予定

定住・二地域居住に関する施策への反映

<定住・二地域居住に関する意識調査（首都圏等在住者）>

1 対象

ふるさとふくしまファンクラブ会員 1,500名（首都圏在住8割程度）

※現在、観光交流課と調整中。

2 設問構成

行動の段階	設問
動機	移住の検討
認知	ふくしまを知ったきっかけ・手段
関心	ふくしま移住への関心・興味・他県への関心
選考	移住先としてのふくしまの良い点・悪い点
行動	移住に必要な支援・移住に際する課題

定住・二地域居住に関する施策への反映

<進路希望調査>

1 対象

(1) 高校生

- ・県内公立・私立高校に通う3年生 14,000人

(2) 大学生

- ・首都圏大学に通う県内出身大学生
- ・県内大学等に通う大学生等

2 配付方法

(1) 高校生

- ・県内公立高校へ紙ベースで配付。振興局へ各学校より定期便で収集。

(2) 大学生

- ・首都圏大学

→1学年50人以上本県出身者がいる大学25校へ各100部ずつ配付(2,500部)

- ・県内大学等

→県内大学に各100部ずつ配付(15校、1,500部)

→県内専門学校については、看護学校も含め10校程度抽出。(1,000部程度)

3 設問構成

	県内	県外
進学	<p>県内の大学等に進学 進学の理由・進学先の専門性等 在学中に必要な支援</p> <p>大学等に対するニーズ把握・地方大学等の魅力向上のための施策へ反映</p>	<p>県外の大学等に進学 進学の理由・進学先の専門性等 在学中に必要な支援</p>
就職	<p>県内に就職 企業選択の視点、職種の希望等</p> <p>企業に対するニーズ把握・就労支援施策へ反映</p>	<p>県外に就職 企業選択の視点、職種の希望等</p>
その他	<p>県内に居住 卒業後の居住</p> <p>ふくしまへの定着・ふくしま回帰への施策へ反映</p>	<p>県外に居住 卒業後の居住 ふくしまでの生活を希望しない理由</p>